



I スローガン 「つながろう ふるさと大好き 熊毛っ子」の育成

II 「熊毛学園」グラウンドデザイン（別紙1）

III 令和3年度の活動目的

- C Sのつながりを中心とした「熊毛中学校区地域協育ネット」の仕組みを核とし、学校間連携を推進する「熊毛地区小・中・高校連絡協議会」、地区内教職員の授業力・指導力向上をめざした「熊毛地区研修会」等の取組を整理した全体構想・協働組織体を「熊毛学園」地域協育ネットと称し、7校（小5・中1・高校1）で取り組んでいく。
- これまでの中学校区内の取組を学園構想体系へ整理する。
- 熟議を通して、関係者（C S委員、教職員等）が「めざす子どもの姿」を確認・共有し、各領域（部会）の重点目標（取組）を考え、P D C Aサイトの「見える化」を図り、関係者（C S委員、教職員等）の理解、地域への周知を進める。

IV 活動概要

1 コーディネーター連絡会議

- (1) 期日 令和3年6月16日（水）13：00～13：45 [於：高水小学校]
- (2) 目的 自己紹介や情報交換を通して、各校COが顔と名前の分かる関係をつくる。
- (3) 概要 ・各校活動状況紹介、取り組みたいことや課題に感じていること等情報交換

2 第1回プロジェクト会議

- (1) 期日 令和3年6月16日（水）14：00～15：30 [於：高水小学校]
- (2) 目的 各校関係者が、「熊毛学園」構想の活動イメージを共有する。
- (3) 概要 ・グラウンドデザインについての説明、及び協議
・8/5拡大C S・合同研修会の持ち方、今後の活動等について協議

3 合同研修会に向けた打合せ（①～③）

- (1) 期日 ①7月2日（金）、②7月21日（水）、③7月30日（金） [於：熊毛中学校]

4 熊毛中学校区拡大大学校運営協議会・「熊毛学園」合同研修会【熟議】

- (1) 期日 令和3年8月5日（木）9：15～11：45 [於：熊毛中学校]
- (2) 概要 領域別に「めざす子どもの姿」について協議（別紙2）
全体会まとめ（別紙3）

5 第2回プロジェクト会議

- (1) 期日 令和3年10月8日（金）15：00～16：30 [於：ゆめプラザ熊毛]
- (2) 目的 プロジェクト会議として、「めざす子どもの姿」を決定する。
- (3) 概要 ・8/5熟議結果から、「めざす子どもの姿」（プロジェクト会議案）決定
・規約、年間スケジュールについて協議、確認

V 成果

- 「熊毛学園」スタートの一年であったが、当初計画した事業を概ね実施できた。
- 各事業、各校C Sを通して、学園構想グラウンドデザインの周知、理解が進みつつある。
- 夏季合同研修会は、教職員、C S委員だけでなく、熊毛中・熊毛北高生徒の参加も得られた。熟議を通して、「めざす子どもの姿」について意見交換がされ、参加者からの評価も高かった。
- 山口大学、県・市教委等、関係機関からの参加があり、適宜指導助言をいただけた。

VI 次年度への課題、今後の取組

- ・ 各領域において、協議、課題意識の共有を進め、具体的活動につなげること
- ・ 年2回の拡大C S・合同研修会のフォーマットを構築すること
- ・ 各校教育活動、各校C S活動と、「熊毛学園」との運動性、整合性を高めること
- ・ 役員会、プロジェクト会議の役割を確認し、その機能を高めること

令和3年度「熊毛学園」地域協育ネット グラウンドデザイン

山口県教育目標 未来を拓く たくましい「やまぐちっ子」の育成

周南市教育基本理念 子どもの夢に寄り添い「生き抜く力」を育む周南の教育

「熊毛学園」地域協育ネットスローガン

” つながろう ふるさと大好き 熊毛っ子 ” の育成

めざす子どもの姿 地域を愛し 地域で活躍する 心豊かな児童・生徒

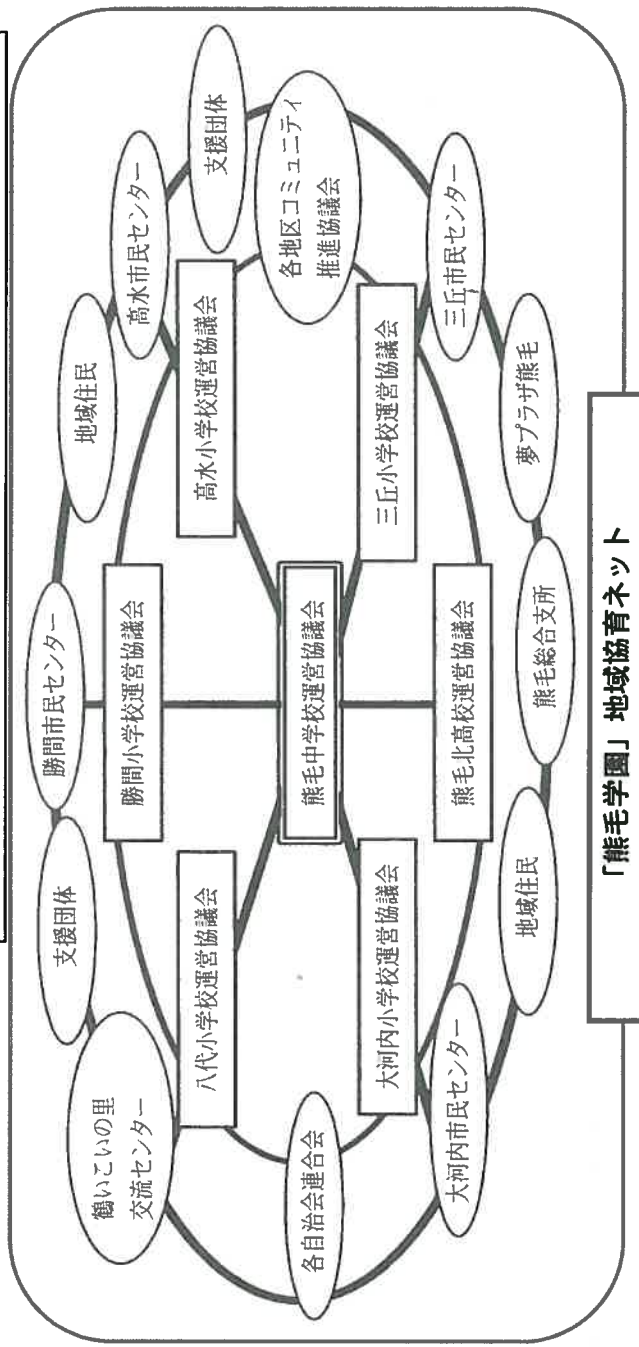
- ・ A領域(部会)の視点からの「めざす子どもの姿」
- ・ B領域(部会)の視点からの「めざす子どもの姿」
- ・ C領域(部会)の視点からの「めざす子どもの姿」
- ・ D領域(部会)の視点からの「めざす子どもの姿」

領域(部会)

- A 連携推進
- B 学力向上
- C 豊かな心育成
- D 健やかな体育成

令和3年度重点目標(取組)

- 育てたい子ども像を共有し、熊毛地域7校CSのつながりを中心とした「熊毛中学校区地域協育ネット」の仕組みを核とし、学校間連携を推進する「熊毛地区小・中・高校連絡協議会」、地区内教職員の授業力・指導力向上をめざした「熊毛地区研修会」等の取組を整理した全体構想・協働組織体を「熊毛学園」地域協育ネットと称し、7校(小5・中1・高校1)で取り組んでいく。
- 令和3年度の活動は、これまでの中学校区内の取組を学園構想体系へ整理すること、関係者(CS委員、教職員等)が「めざす子どもの姿」を確認・共有すること、各領域(部会)の重点目標(取組)を考えること、PDCAサイクルを見通した年間の活動の流れを作成すること、としたい。
- これらを通して「熊毛学園」地域協育ネットの「見える化」を図り、関係者(CS委員、教職員等)の理解、地域への周知を進める一年間としたい。



「熊毛学園」地域協育ネット

1 当日の流れ

(1) 開会行事・全体会 (30分) 9:15~9:45

- ・ あいさつ (熊毛中学校学校運営協議会会長)
- ・ 「熊毛学園」構想概要説明
- ・ 県教委から
- ・ 領域部会「熟議」の流れ確認

(2) 領域部会 ※熟議 (110分:休憩含む) 9:45~11:35

- ・ 前半: 各領域の視点での、各校の様子・実態についての意見交換をする。
 - ・ 後半: 各領域における「7校で共有できる育てたい子どもの姿」を考える
- ※ 領域部会講評 (各指導助言者)

(3) 全体会・閉会行事 (20分) 11:35~11:55 (部会終了時刻)

- ・ 4領域部会からの報告 ~ シェアリング
 - ・ 総評・総括 (県教委)
 - ・ あいさつ (熊毛北高等学校学校運営協議会会長)
- ※ 領域部会ごと閉会・解散



くまげがくえん

2 当日の担当・役割

《領域部会担当》 ※グループリーダーはメンバー内互選

領域	会場責任者 (記録)	ファシリテーター	指導助言者
A: 連携	永田 (勝間小)	中西 (勝間小)	時乗 順一郎 教授 (山口大)
B: 学力	瀬川 (八代小)	中野 (八代小)	大津 久美 主査 (県教委)
C: 豊心	小川 (三丘小)	河野 (三丘小)	布施 安浩 CSAD (市教委)
D: 健体	池田 (高水小)	真山 (高水小)	中野 大輔 指導主事 (県教委)

《全体会・開閉会式担当》 ※進行: 田中 (八代小)

開会行事	あいさつ	藤津 陸博 熊毛中学校CS会長
	学園構想概要説明	河村 (熊毛中)
全体会	県教委プレゼン 領域部会の流れ説明	森山 義紀 指導主事 (県教委)
	総評・総括	木本 育夫 CSエキスパート (県教委)
全体会 閉会行事	あいさつ	徳原 慶二 熊毛北高等学校CS会長

3 部会の流れ

9:45～11:35 (110分)

※時間配分は目安です。

1 部会の流れ・進め方の確認、大切にする視点 (前述) の共有【ファシリテーター】 9:45～9:50

2 グループワーク【グループリーダー】 9:50～11:00

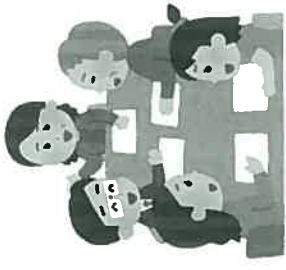
- ① 各領域の視点から、各校の取組や様子、成果や課題、これまで感じていること (所感) などを、ワークシート (当日資料に綴じておく。) の概要欄に書く。 … 3分
- ② 順に自己紹介を行い、①について発表する。 … 10分
- ③ ②の取組や様子等について、情報交換、意見交換を行う。 … 15分
- ④ 7校で共有できる「育てたい子どもの姿」のアイデアやキーワードなどを、ワークシートの該当欄に書く。 … 5分

休憩 (④と合わせて10分程度にする。)

- ⑤ 順にアイデアやキーワードを紹介し、領域としての「育てたい子どもの姿」をグループで定めていく。(後の部会内シェアリングの発表者をグループリーダー以外のメンバーから決める。) 10:30～ … 30分

3 領域部会内のシェアリング、7校で共有できる「育てたい子どもの姿」の集約に向けた協議【ファシリテーター】 11:00～11:35

- ・ 参加した中学生、高校生の感想。(各1名)
- ・ グループ発表が2～3分(グループ数による)を超えないように約束する。そのためには、伝えたいことを端的に、的確に。出された意見をたくさん紹介するだけの発表はNG。
- ・ 協議を通して、領域として「育てたい子どもの姿」の集約ができれば望ましいが、難しい場合は、「いくつかの案に絞る」、「文言の精選はできなくても、○○のような姿という方向 (イメージ) を確認する (押さえる)」等ができるだけ進める。
- ・ 指導助言者から講評をいただき、領域部会としてのまとめを行う。アンケート記入を呼びかけ、全体会でのシェアリングに備える。



全体会閉会行事後、部会を閉じます。最後は拍手で終了しましょう。
【ファシリテーター】

- ・ 会場責任者（河村康男）、ファシリテーター（田中一志）、指導助言者（木本育夫）
- ・ 参加者数 147名～教職員 78名、地域関係者 48名、生徒 21名
外部出席者 10名～県教委 3名、周南市教委 2名、光市教委 2名、山大関係者 3名
- ・ 熊毛学園協育ネット会長（藤津睦博）
平成 26 年度の拡大学校運営協議会において、熊毛子ども育成スロージャン「つながろうふさと大好き 熊毛っ子」を作成し、各小・中学校運営協議会が特色ある活動がなされ、子ども達はスローガンに向けて着実に取り組み実績をあげている。本日の研修会では、学校・家庭・地域が連携して熊毛地区で育てたい子ども像を共有し具現化を図るものである。今年度は「熊毛学園構想」のスタートの年であり、この「熊毛学園構想」が、子ども達一人ひとりが主体的に考える場になればと思う。「熊毛学園」は各小中高の学校運営協議会の協働組織体であり、地域協育ネットある。めざす子ども像は「地域を愛し、地域で活躍する、心豊かな児童生徒」の育成である。一人ひとりに「生きる力」を育み、学校・家庭・地域が連携、協力して取り組みたい。



- ・ 指導助言（木本育夫）
今日の協議は平成 26 年度に立ち上げた地域協育ネットの成果が表れていた。学校・地域が当事者意識をもって、みんなですべてを支えていかなければならないという意識をもっているから意見がでたのだと感じている。当事者意識が地盤である。すでに地盤ができていたので再スタートである。
生徒が参加する取組は県内でもなかなかない。子どもたちが地域の人が一生懸命自分たちのことを考えているだと感じることも大切ある。今日は、育てたい子ども像について検討されたが、みんなが知っておくことが大切、子ども達が知ることが大切、先生・地域・家庭が意識することが大切である。周知がどの地域でもうまくいっていない。プリントを配って終わりでは周知しない。周知の仕方を工夫してほしい。
今後は各校での活動を育てたい子ども像と結びつけることが大切である。授業と結びつける、行事と結びつける。小中高で共通して取り組んでいるものは少ないが、これから各校の共通部分を探し出して「これだけはやっていこう」という領域の軸にしてほしい。時間をかけて柱をつくっていきければよい。また、大人がつながること、先生方がつながること、子ども達がつながることが大切である。もっともっと互いがつながる場を設定する。それぞれの立場でつながり、具現化に向けてどんな取り組みをするかを考えていくことが大切である。
- ・ 熊毛学園協育ネット副会長（徳原慶二）
高校は地元によりながら地域の方が来校する機会も少なく、地域とつながる感覚がない。ぜひ熊毛北高校に足を運んでほしい。今日のつながり、出会いを大切に、みんなが熊毛地区の子どもたちを育てていきたい。
- ・ 所感
今日の生徒の様子は、先生方の配慮もあるが、まさに H26 からの成果である。生徒の参加により、教職員も地域も児童・生徒を中心とした熊毛学園であること、今後も児童・生徒が積極的に参加することが強く印象付けられたと考える。今後は、持続可能な組織づくり、持続可能なスケジュールづくりを推進していきたい。

